

平成27年度
こころ医療福祉専門学校佐世保校
学校自己評価結果報告書

平成28年4月20日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
(平成25年) 準拠

1. 学校の教育目標

<ビジョン>

2020年までに長崎県No. 1教育機関になる。

<実現に向けたテーマ>

思いやりと創造・グローバル化、すべてのニーズに応える。

<基本方針>※具体的な方策

1. 教育 合格率100%(国家試験・資格試験)
就職率100%
2. 企業や地域との社会連携・社会貢献
3. 社員満足度
4. 留学生の受け入れ・海外教育機関との連携

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 教育 (a)合格率100%(国家試験・その他の資格試験)
(b)就職率100%
(c)退学率 0%
(d)教員の安定確保
(e)教育部主導による就職先の安定的確保と良好な関係性の維持
(f)卒後教育の充実
2. 企業や地域との社会連携・社会貢献
(a)職業訓練への高い意識と堅実な運営
(b)自治会や地域住民への貢献と連携
(c)就職先の安定的確保と良好な関係性の維持
3. 留学生の受け入れ・海外教育機関との連携
(a)日本語科への高い意識とスムーズな開校、堅実な運営
(b)アルバイト先の確実な開拓と関係性の構築

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切: 4、ほぼ適切: 3、 やや不適切: 2、不適切: 1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	深い専門知識、技能と誠実で人間味あふれる人材育成を目指し、専門分野への就職の支援を通じて社会に貢献する理念が明確に定められている。
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	対人の施術を通じた社会的貢献を目指す。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	関連業界の動向と将来性を常に注視し、学校運営に反映させている。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係者等に周知されているか。	4	3	2	1	志望段階、入学前のガイダンス、入学後、学年ごとに学生、保護者面談等で周知活動は重ねているが充分ではない。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	関連業界の動向と将来性を常に注視し、学校運営に反映させている。

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・常に関連業界と連携を取りながら、業界の動向に注意を払い、将来性を見据えて教育内容を組み立てていく必要性。 ・学校の理念、教育目標等の保護者への周知はまだ充分とは言えない。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・長崎校と合同で実施する教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会を通じた関連業界との連携をさらに強化するとともに、関連業界の動向把握に努め、より精度の高い将来性の評価能力を開発していく。 ・学校の理念、教育目標等について、保護者との直接面接、広報誌、インターネット等による周知の機会を増やす。

③特記事項

--

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	③	2	1	年間を通じた教職員研修会の場で理事長から運営方針が示される。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	③	2	1	理事長の運営方針を受け、校長を中心として、各職員が四半期ごとにPDCAサイクルを実施している。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	③	2	1	組織図、各種会議が規程で示され、定期的に関催され、議事録を回覧している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	④	3	2	1	整備されている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	③	2	1	ほぼ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	③	2	1	地域行事への参加など、関係は良好である。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	③	2	1	カリキュラム、時間割、シラバスは学生に配布している。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	④	3	2	1	OA機器の導入、イントラネットの構築など、業務の効率化は図られている。

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のPDCAサイクルは実践され定着している。 ・時間割、カリキュラム等のホームページ公開について検討中である。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAの目標設定を数値目標を多く取り入れるなど、より具体的な設定を記載するように検討する。

③特記事項

--

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	④	3	2	1	社会のニーズに沿った人材教育を行うことを教育理念として掲げ、各科の養成施設指定規則に則って策定されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	③	2	1	校外実習・校内で実施する就職説明会を通して、業界団体と意見交換を行い、業界のニーズを捉え、これを基に教育到達レベルを設定している。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	④	3	2	1	指定規則に基づき、体系的に編成されている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	③	2	1	2年次の授業で行う「臨床実習」を通してキャリア教育・実践的な就業教育の工夫・開発を実施している。
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	③	2	1	教育課程編成委員会を開催し、関連業界との連携をとっている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	③	2	1	授業評価アンケートを年2回実施しているがその後の具体的な改善策が不十分である。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	③	2	1	年2回の学校関係者評価委員会を設置し、改善に努力している。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	④	3	2	1	学生便覧に明示し、学生にも説明している。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	③	2	1	専門基礎を土台とし、専門科目や実技に繋げ、体系的に行われている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	③	2	1	全教員が業界のニーズを捉え、発展に寄与できる人材教育を念頭に置いた学生への関わりを行っている。
・関連分野における優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	③	2	1	教育課程編成委員会、就職説明会など情報交換を行い、また関係各校からの推薦等により人材を確保している。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	③	2	1	教職員が定期的に外部の勉強会に参加し、研修を深めている。また、校内教職員が授業を互観し、気付きを指摘し合っている。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	③	2	1	外部講師を招聘し職員研修会を定期開催している。外部研修への参加も積極的に行っている。

①課題

・授業内容や教授法について、把握、評価する体制が充分でない。

②今後の改善方策

・計画的に、相互の授業見学を実施し、教授法の向上に努める。
・教職員が参加した学会、セミナー等の伝達講習会を定期的で開催し、情報の共有化を図るとともに、教職員の質の向上を図っていきたい。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・進学率・就職率の向上が図られているか。	4	③	2	1	会社説明会や各担当による細やかな学生対応、新規求人先企業の開拓を積極的に行っている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	③	2	1	資格・国家試験対策会議の実施、早期からの補習の実施等各種資格取得率の向上を目指している。
・退学率の低減が図られているか。	4	③	2	1	問題学生について早期の保護者面談、個人面談、カリキュラムの改善等、退学者を減らす対策を講じている。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	②	1	卒業生の巡回や在校生の面談を行っているが、まだ充分ではない。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1	今年度から卒業研修会を実施し、現場との情報交換を通して、教育活動の改善に努めなければならない。

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の改善、学習能力の向上のための工夫・努力がさらに必要である。 ・卒業生に対するフォローアップ体制を構築していかなければならない。
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談、個別指導状況を学科ごとにまとめ、毎月、学科長会議等を通して、情報の共有化を計り、学校全体として取り組む。 ・卒業生の職場訪問を教職員が定期的に行い、情報の共有化を計り、教育活動の改善に活かしていく。 ・各学科ごとの卒業研修会を開催をする。

③特記事項

--

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	③	2 1	個々の学生に対する担任の就職相談、就職先説明会の本校実施等、新しい就職情報を学生に提示している。
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	② 1	相談内容に応じて担任をはじめ教職員が相談に応じている。
・学生に対する経済的な支援体制(アルバイトの紹介)は整備されているか。	4	③	2 1	日本学生支援機構等の奨学金が利用可能。学費の分納にも対応。各種減免措置を講じている。
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	③	2 1	看護職員による保健室管理運営に加え、毎年の集団健康診断を実施している。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	③	2 1	認可された課外活動に顧問を配置し補助金を支給し奨励している。
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	③	2 1	遠隔地から入学者に転居費用の一部補助やスクールバス運行などの支援を行っている。
・保護者と適切に連携しているか。	4	③	2 1	必要に応じて、学科ごとに毎年、保護者意見交換会を実施している。
・卒業生への支援体制はあるか。	4	③	2 1	同窓会や卒業教育の充実を計り、支援体制を整えていく。
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	③	2 1	国が定める「職業訓練事業」を受託し介護職についての研修を実施している。。
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	③	2 1	各種資格講習会や高校訪問授業のほか、通信制高校等との連携実績がある。

①課題

- ・課外活動においては校内での十分なスペースの確保ができるかどうか。
- ・保護者への学生状況、学校行事等の、周知。

②今後の改善方策

- ・課外活動の場として、利便性の高い学外施設の利用を進め、課外活動の幅を広げる。
- ・連絡網の整備や日常的な情報交換の機会を増やし、保護者との連携を高める。
- ・各学科で同窓会組織及び卒業研修会を充実させ、卒業生の動向について情報交換を活発化する。
- ・保護者への周知の為に保護者説明会の回数を増やし、参加率を向上させるための方策を考える。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目				適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	③	2 1	必要性のある設備については整備されており、教育上充分に対応できている。
・校内での実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	③	2 1	適切な実習設備を確保している。海外の教育機関や公的研修施設と連携して適切な海外研修を実施している。
・防災に対する体制は整備されているか。	4	③	2 1	防災設備の点検、危険個所の適宜改善、設備管理業者立ち合いのもと、全生徒による避難訓練の実施など、体制を整備している。

①課題

<p>・より高度な教育環境を実現するための施設や設備の更新</p>

②今後の改善方策

<p>・設備面でのメンテナンスなど、定期点検をさらに強化して、必要な設備等があれば、更新する。</p>

③特記事項

--

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・学生募集活動は適性に行われているか。	④	3	2	1	各地域での進学ガイダンスや高校で実施されるガイダンスにおいて、学校案内や募集要項等、学校の実相を正確に告知している。
・学生募集活動において教育成果(目標)は正確に伝えられているか。	④	3	2	1	募集パンフレットやインターネット上で、資格試験合格率、就職内定率等を正確に伝えている。
・学納金は妥当なものとなっているか。	④	3	2	1	他校に比較して平均的な設定となっている。

①課題

・県内高校新卒にとって、県外校より魅力のある学校になるように改善を重ねていく一方で、県外の広域の高校新卒者に対しても積極的な募集活動を展開して学生数の確保に努力する。

②今後の改善方策

・少子化、高校生の大学進学志向、就職状況の向上などが顕著化していく中で、高校新卒生、社会人共に入学希望者が年々減少している中で、効果のある広報活動をいかに実践していくかが大きな課題である。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1					
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	③	2	1	入学者の確保のため各学科教育内容の刷新を行うとともに、新学科を創設、又経費節減等で財務の安定化を図っている。	
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	③	2	1	予算作成に際して、校長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。	
・財務について会計監査が適性に行われているか。	④	4	3	2	1	適時、内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	④	4	3	2	1	公開している。

①課題

・可能な経費節減を更に進め、少子化による、高校新卒者の減少、就職状況の向上による社会人入学希望者の減少に対して、いかに効果的な広報活動を行うかが、喫緊の課題である。
 ・少子高齢化対策として、学科の改廃などの計画を策定し、財務基盤の安定化を図っているが、迅速な事業展開を行うことが容易ではなく、結局のところは経費節約等に対応せざるを得ない部分が多いが新しい事業展開も検討していく必要がある。

②今後の改善方策

・経費節減を更にすすめ、より効果的な広報活動を検討する。
 ・付帯教育の強化など、新しい事業展開も検討していきたい。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか。	④	3	2	1	学校教育法、各種養成施設設置規則等を遵守している。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	③	2	1	個人情報管理規定の整備、文書ロッカーの施錠、使用済名簿のシュレッダー廃棄等実施している。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	③	2	1	毎年、自己評価を実施し、外部評価委員会にて審議、協議を行っている。
・自己評価結果を公開しているか。	④	3	2	1	自己評価結果をインターネット上の学校ホームページに公開している。

①課題

<p>・学園グループ全体のネットワーク情報のセキュリティ管理。</p>

②今後の改善方策

<p>・ネットワーク情報システム管理の強化と教職員セキュリティ教育の推進。</p>

③特記事項

--

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4 (3) 2 1	介護関係団体や整骨院等からの依頼により、備品等を貸出したり、自治会行事、ボランティア活動の積極的な参加を通して社会貢献、地域貢献を行っている。		
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4 (3) 2 1	施設や自治会等からのボランティア依頼の伝達及び、学生引率などを実施している。		
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	(4) 3 2 1	毎年、一定の職業訓練生を受け入れている。関連する専門資格者による各種研修や、公開講座の開催など実施している。		

①課題

・学校の立地や設備の制限のあるなか、最大限の利用に努めているが、さらに社会貢献・地域貢献に努めたい。

②今後の改善方策

・様々な団体との連携により、学内外の施設を利用した社会貢献・地域貢献の機会も増やしていく。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
・留学生の受入れについて戦略を持って行っているか。	4	③	2 1	留学生の卒業後の進路設計を行いながら、質の高い留学生の獲得に努めている。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	③	2 1	平成27年度10月からの留学生の受入れに向けて、適切な手続きを行ってきた。今後も入管の指導のもと、適切な手続きを通して、留学生を受け入れ、教育に尽力していく。
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	③	2 1	留学生担当の教員、事務責任者を配置し日本語能力の習熟度によるクラスの編成、組織的な学習指導体制の整備を進めている。
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	③	2 1	高級学校への進学、就職の為に日本語能力試験の合格者を多数排出する為の指導体制を整えている。

①課題

・異文化の中で育った多様な留学生に対し、日本の生活文化をいかに理解させるか、また逆に我々が彼らの生活文化をいかに受け入れ相互理解を促進させるか。

②今後の改善方策

・授業や寮生活のあらゆる場面で、教職員、寮監が日本の生活習慣や文化に触れる環境を提供する。また、日本での社会生活に適切なアルバイト等を通して、日本文化に触れさせる。

③特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な方策

- 1 教育 合格率100%(国家試験・各種民間資格)
就職率100%
- 2 企業や地域との社会連携・社会貢献
- 3 社員満足度
- 4 留学生の受入れ・海外教育機関との連携

常に「何のためにを追究し」、「社会が求める人材の育成」に尽力し、「人格の形成」と「社会に貢献」することに努め、「信頼あるプライドのもてる学校づくりを目指す」という本学園の理念に基づいて、上記具体的な方策を定めた。

1 教育について

各学科100%という目標合格率には到達しなかったが、教職員が意識を持って対応した結果、殆んどの学科において、全国平均を上まわった。就職率は全ての学科で100%を達成する見込みである。

2 企業や地域との連携・社会貢献

専門学校として教育の質を向上させるため、「学校関係者評価委員会」及び「教育課程編成委員会」を開始し、両委員会において、企業からの本学園に対する建設的な意見や、現場における貴重な情報を聴取する等、企業との連携の深化が図られた。地域主催で開催される各種スポーツ大会や高等学校の部活動において、教職員のボランティア活動や実習を兼ねた学生のボランティア活動を行った。また本校が所在する地域の行事やボランティアに積極的に参加し、地域貢献にも力を入れている。

3 社員満足度

国家資格の高い合格率や100%達成の就職状況、地域・高等学校へのボランティア活動等を通して、本校活動に対する地域の方々の理解と支援を実感し、地域に貢献できるプロフェッショナルを育成するという地域に根ざした教育活動に従事できている。

4 留学生の受入れ・海外教育機関との連携

平成27年度10月より、本校において「日本語科」を開設し東南アジア・南アジアから留学生を受け入れた。日本語能力の向上と進学支援に務めているが、まずは、進学のために必要な日本語能力の向上と日本文化や生活習慣を理解させることに注力してきた。留学生は、全体的に上記目標に向けてまじめに積極的に学習を深めている。

